

歴史を歩く 62

（未知なる歴史が探究心をかき立てる地域（永吉地区））④
 おおさきの歴史を旅してみませんか②⑧



16 宮園の水神

宮園の田んぼの淵に鎮座されている。水稲耕作と強く結びついた、田を守る水神である。石祠の銘には『文政十三年（1830年）寅年吉日』と刻まれている。



15 宮園の稲荷神社

詳細は不明であるが、農業神・穀物神であるお稲荷様を祀り、五穀豊穡を祈ったものと考えられる。石祠の銘には『文政十二年（1829年）正月』とある。



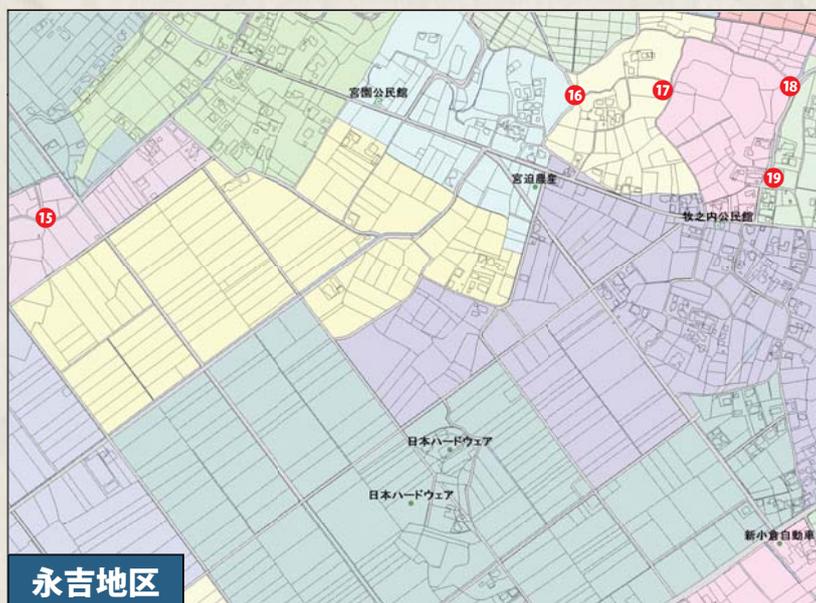
17 宮園の古石塔群

宮園は、平家の落人の地といわれている。宮園の古石塔群では、多数の宝篋印塔が確認されている。銘が確認できる中では、延宝二年（1674年）のものが最古である。町内では最大規模の古石塔群である。



18 牧之内の田の神・水神

女人型で杓子とスリコギを持った田の神である。持ち回りで集落内の各家庭に祀られていたが、昭和33年5月5日に水神が祀ってある敷地に据えられた。以降、集落では小型の田の神を持ち回っている。水神には『弘化三年（1846年）』の銘が刻まれている。毎年旧暦の8月15日に『八月踊り』が奉納されている。



永吉地区



19 牧之内の馬頭観音

牛馬の守護神として信仰を集めた。縁日にあたる旧暦の1月18日と6月18日は、牛馬の息災安全を祈願する多くの参詣者でにぎわった。馬草原（現在の志布志市有明町野井倉）からの移住者である牧之内の人びとが、馬草原より分霊を勧請し祀ったといわれる。敷地内には、幹回りが5mを超える大きなハゼの木がある。